ＪＲ東海労ニュース

№１５３０
２０１１年3月2日
ＪＲ東海労働組合

あらゆる誹謗・中傷に抗して、
平和・人権・民主主義を守るために闘おう！

２月21日、衆議院予算委員会において、自民党・平沢勝栄衆議院議員は２月10日に続いて、２回目の「ＪＲ総連への革マルの浸透」ということに関する質問を行いました。平沢議員は、昨年８月３日、11月８日にも、ＪＲ総連を誹謗する国会質問を行うなど、私たち労働組合に対する過激派・革マルキャンペーンを一段と強めています。

また、自民党・佐藤勉衆議院議員が昨年２度にわたり、『革マル派によるＪＲ総連及びＪＲ東労組への浸透に関する質問趣意書』を提出し、それをもとに、柴山議員、棚橋議員が連続して、国会において質問するなど悪辣な過激派キャンペーンを繰り広げています。

この国会での動きと連動して、ＪＲ連合は、連日『民主化闘争情報』などで過激派・革マルキャンペーンを展開しています。まるで統一された指令に基づくように、息がピッタリです。

この間、私たちは、労働組合として社会的弱者の立場に立ち、差別・抑圧・迫害・えん罪・弾圧に苦しむ人たちと連帯し、えん罪のない社会や取り調べの全面可視化を強く主張し、平和・人権・民主主義の確立に向けて奮闘してきました。また職場では、組合員の要求や問題点・課題を解決するために声を上げてきました。その意味では、極めて当たり前の労働組合活動を展開しています。権力者にとっては、このような労働組合の存在が邪魔なのです。国会におけるＪＲ総連＝革マルというキャンペーンの狙いは、まさに、私たちに過激派のレッテルを貼り社会から抹殺することにあります。

今日、執拗に展開されている国会における質問など、過激派・革マルキャンペーンの手法は、戦前・戦中の「赤狩り」「レッドパージ」、そして、ドイツ・ナチスによる「ユダヤ人狩り」に共通するものがあるといっても過言ではありません。このような卑劣な攻撃を許すわけにはいきません。私たちは、このような攻撃を打ち破り、職場に根を下ろした労働組合活動を展開し、連帯の輪を拡げていかなければなりません。

自民党国会議員による過激派キャンペーンは、組合活動の圧殺を意図する組織破壊攻撃だ！